

平成2015年度下半期事業のご報告

関西・大阪21世紀協会は、「交流と助成」「発掘と発信」「伝統と創造」を事業の3本柱として推進しています。そのなかで2015年10月～2016年2月に協会が主催、参画した事業をご報告します。

交流と助成

日本万国博覧会記念基金事業やアーツサポート関西事業、大阪文化祭賞事業(本号p8～14)をはじめ、関西・大阪を拠点に活動するアーティストに発表の場を提供し、支援の輪を広げる取り組みです。

新進アーティストに飛躍のチャンス アートストリーム2015

2015年11月13～15日／大丸心齋橋店

主催：アートストリーム実行委員会

(関西・大阪21世紀協会、大阪芸術大学、大阪府、大阪市)

関西を拠点に活動する新進アーティストに、発表とビジネスマッチングの場を提供する目的で毎年開催される「アートストリーム」。第15回となる今年度は、「アートの殻を突き破る表現者たち・未来の才能に会う展覧会」と題し、絵画、イラスト、クラフトなど一般公募で選ばれた90名のさまざまな作品が出品され、3日間でのべ約3,700人の来場者で賑わいました。

絹谷幸二氏(大阪芸術大学教授、文化功労者)が審査委員長のアワード選考では、白子侑季さん(グラフィックデザイン、インスタレーションビュー)にグランプリが贈られました。白子さんは前年に引き続き2度目の参加で、自分の唇を身体の一部とコラボした『クチビルマミレ』を出品。「10年以上創作活動を続けてきて、家族や友人など応援してくれる多くの人たちにやっと喜んでもらえる結果を出せた。これを励みに作品をさらに進化させ、海外での展覧会にも挑戦したい」と声を弾ませました。

また、仕事のオファーや個展開催などが副賞となる「企業・ギャラリー賞」は、浅野成亮 seisukeさん(イラストレーション／関西・大阪21世紀協会賞)や谷田有似さん(切り絵／アーツサポート関西賞)が受賞。奨励賞や来場者の投票で決めるオーディエンス賞を含め、全24賞・18名が受賞しました。



白子侑季さん(グランプリ受賞)



浅野成亮 seisukeさん(関西・大阪21世紀協会賞受賞)

発掘と発信

大阪の歴史的資産や伝統行事の発掘、研究を深めるとともに、各界の有識者を交えて関西・大阪における文化の諸問題を探り、その成果を発信します。

フィールドワークで大阪の歴史・文化を探る 南大阪・上町台地フォーラム

2015年10月22日(第1回：弥生文化博物館／和泉市)

12月4日(第2回：富田林寺内町／富田林市)

フィールドワークを通して大阪南部地域の歴史や伝承などを探る企画。今年度の第1回は「日本の文化と食の源流」をテーマに、和泉市の弥生文化博物館と池上曾根遺跡を訪ねました。参加者は、弥生文化全般を対象とする全国でただ一つの博物館で、学芸員から米づくりや青銅器や鉄器の発祥、社会の仕組みができていった過程や卑弥呼の登場など、弥生時代の文化や生活について説明を受けました。同館に隣接する池上曾根遺跡では、大型掘立柱建物を見学しました。

第2回は、近世以降、南河内一の商業地といわれた富田林寺内町(じないまち)を探访しました。当地は室町時代後期の永祿初頭(1558～1561年)に興正寺別院の建立と町割の建設によってできた宗教自治都市で、江戸時代には商売が盛んな在郷町として発展したところ。平成9(1997)年には、国の重要伝統的建造物保存地区に選定され、参加者は、ボランティアガイドの案内で、往事の繁栄を物語る商家の町並みや創建当時から残る町割りを見学しました。



弥生文化博物館にて(2015年10月22日)



富田林寺内町にて(2015年12月4日)

交流サロン 21cafe

現代アート経済学

宮津大輔氏 (アートコレクター)

2015年11月5日 / 中之島プラザ

『現代アートを買おう』『現代アート経済学』の著書がある宮津氏は、企業に勤めるかたわら、収集したコレクションやアーティストと共同で建てた自宅が国内外の展覧会に出品された話題の人。21cafeでは、アート作品を金融商品のひとつとして捉え、アーティスト別の売上やオークションでの年間落札合計額などを示して、現在のアート市場の傾向について解説しました。また、アート界を動かす人々やその役割について紹介し、20世紀はギャラリーの時代であったが、「21世紀はアートフェア(画商が一堂に会し、作品を展示販売する催し)の時代にある」と指摘。インターネットやSNSでアーティストの作品が多くの人に知られる現代にあっては、優れたアーティストが発掘されやすい状況にあると述べました。



宮津大輔氏

これからの関西

宮野谷篤氏 (日本銀行 理事 大阪支店長)

2015年12月9日 / 中之島センタービル

宮野谷氏は、2014年以降の関西経済について、生産・輸出・設備投資や外国人観光客による消費が全国よりも堅調であるとし、雇用や賃金も着実に回復が続いていると分析。近年は中国内陸部でも所得が増加する傾向にあり、中国人観光客は今後も一段と増加するだろうと予測しました。また、関西は女性配偶者の収入の低さ(就業率の低さ)が世帯当たりの収入を押し下げる構造になっていると指摘。関西は全国の中でも女性の大学進学率は高いにもかかわらず、女性の就業率が低く、この傾向はとりわけ大阪府で顕著であるとし、就業率を向上させる取り組みが必要だと強調しました。さらには介護ロボットやiPS細胞など、高齢化社会にあって新規需要につながる技術や知見は関西に集中していることをあげ、「高齢化は需要減少には結びつかない」「高齢者や女性の労働参加が関西の活性化を促す」と述べました。



宮野谷篤氏

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

鈴木香織氏

(内閣官房 東京オリンピック競技大会・

パラリンピック競技大会推進本部事務局 内閣参事官補佐)

2016年2月8日 / 中之島プラザ

鈴木氏は、2015年11月27日に閣議決定された東京オリンピック・パラリンピックの「基本方針」の中に、「日本文化の魅力の発信」を掲げていることを紹介。日本には、伝統的な芸術をはじめ現代舞台芸術、最先端技術を用いたアート、デザイン、クールジャパンとして世界が注目するコンテンツ、メディア芸術、ファッション、地域性豊かな和食、日本酒、祭り、工芸品、和装、花、日本建築など多様な文化があると、これらを通じて日本全国で大会の開催に向けた機運を醸成しようと呼びかけました。また、日本文化の魅力を世界に発信し、地方創生、地域活性化につなげることが大事だとし、それに向けて関係府省庁等連絡会議を設置するとともに、仕掛けづくりなどのアイデアを募るため、遠藤利明大臣(東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当)と有識者との意見交換を開始したと述べました。



鈴木香織氏

上方文化芸能や上方伝統行事などの無形文化遺産の保護・育成を目的として、当協会が実行委員会に
参画したり、当協会の上方面文化芸能運営委員会が実施・協賛しています。

今宮戎神社宝恵駕行列への助成・協力

2016年1月9日／大阪ミナミ(道頓堀～今宮戎神社)
関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会

元禄時代、商売繁盛を祈願して、大阪ミナミの芸妓衆を華やかに飾り付けた駕籠に担ぎ、今宮戎神社・十日戎に参詣したことに始まる宝恵駕(ほえかご)行列。最盛期は明治・大正・昭和(戦前)で、百挺もの駕に芸妓が担がれ、華麗を競い、盛大に賑わいました。芸妓が少なくなった今は、芸妓代表を先頭に芸能人たちが駕に担がれ、今年もミナミから今宮戎神社へと続く道が多くの参拝客や海外からの観光客で賑わいました。200年以上も続くこの行列は、無形民俗文化財に指定されています。

関西・大阪21世紀協会の上方面文化芸能運営委員会は、宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっています。



今年の芸妓代表・佳世子さん

堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2016年2月3日／堂島薬師堂および周辺
主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

大阪キタの賑わい創出と水都大阪の再生をめざし、2004年にはじまった「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」。今年で13回目を迎え、堂島薬師堂(大阪市北区)で奈良薬師寺の山田法胤管主による節分法要と薬師寺で祈祷された「お香水(こうずい)」を汲む「お水汲み」が行われました。堂島アバンザの特設会場では、多くの見物客が集まるなか、薬師寺僧侶たちによる日本の歌謡の原点といわれる「声明(しょうみょう)」や北新地芸妓衆による舞の奉納、北新地ホステスらによる「お化け(仮装)」などが行われました。今回は文楽人形遣いの吉田簗二郎さんが曾根崎心中のヒロイン「お初」人形とともに参加し、総勢約150人が夕暮れの北新地を練り歩きました。当協会の堀井良殷理事長は、この行事の共同実行委員長を務めています。



山田法胤管主よりお香水を受ける吉田簗二郎さんとお初人形(堂島アバンザ会場)

トピックス・ニュース

吉田玉男さんがニューパワー賞を受賞 平成27年度 関西元気文化圏賞贈呈式

2016年1月21日／リーガロイヤルホテル大阪



吉田玉男さん(祝賀会にて)

文化を通じて関西から日本を元気に明るくした人や団体などへ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる「関西元気文化圏賞(関西元気文化圏推進協議会・森詳介会長)」。

その贈呈式が文化庁芸術祭賞贈呈式と合同で行われ、文楽人形遣いの吉田玉男さんに、「ニューパワー賞」が贈られた。ニューパワー賞は、とくに将来性が期待される人や団体に対して贈られる。吉田玉男さんは1968年に初代吉田玉男に弟子入りして以来、立役(男役)中心に活躍。2015年4月に師匠の名跡である吉田玉男を襲名し、文楽界を支える大黒柱のひとりとして今後の活躍が期待されている。平成27年度の各賞受賞者は以下の通り。大賞：姫路城(姫路市)／特別賞：高野山真言宗総本山金剛峯寺、琳派400年記念祭委員会／ニューパワー賞：吉田玉男(文楽人形遣い)、又吉直樹(芸人)、チームラボ(アート、クリエイティブ集団)、すなば珈琲。(敬称略)

文化を通じて関西から日本を元気に明るくした人や団体などへ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる「関西元気文化圏賞(関西元気文化圏推進協議会・森詳介会長)」。



主催者と受賞者

関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費1万円

お問合せ(公財)関西・大阪21世紀協会 総務部

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など